# 助けの必要な人々の世話をする

2021 年　年次報告書

末日聖徒イエス・キリスト教会

# 目次


3　大管長会からのメッセージ

4　聖約を守る決意

5　断食の律法と主の倉

6　取り組みの概要

8　一覧

**助けの必要な人に対するミニスタリング**

10 ミニスタリング

12 隣人の世話をする

14 子供と青少年

**熱心に携わる**

16 JustServe（ジャストサーブ）

**奉仕の召し**

20 福祉・自立宣教師

22 自立コースの進行役

24 ファミリーサービスのカウンセラーと進行役

25 デゼレト産業

26 奉仕宣教師とティーチング宣教師

28 暫定支援サービス

**ワールドワイド・エイド**

30 食糧安全保障と栄養

32 清潔な水と衛生

34 教育

36 医療と障害

**緊急支援**

40 緊急支援

43 献血運動

44 食糧の生産と配送

**感謝に寄せて**

**参照文献**


*表紙の画像：ペルーのクスコの地域奉仕プロジェクトで一緒に働く若い教会員。*

上：2019 年にラテンアメリカで人々を教え導いた際に，アルゼンチンで行われた車椅子贈呈イベントに出席したラッセル・M・ネルソン大管長。

**愛する友人の皆さん，**

困っている人の世話をすることは，イエス・キリストに従う者にとって義務であり，喜びに満ちた特権です。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として，わたしたちはいちばん大切な二つの戒め，すなわち，神を愛することと隣人を愛すること（マタイ 22：37 － 39 参照）という戒めに従って生活することを決意しています。教会として，わたしたちは主の勧告に従ううえで，能力と世界的なつながり，およびリソースに恵まれています。

神の子供たちの世話をする様々な働きを記録したこの年次報告書を提供できることをうれしく思います。わたしたちは，これを可能にしてくれる教会員や友人の時間や才能など無私の忠実なささげ物に感謝しています。「熱心に善いことに携わり」引き続き奉仕を通して互いに強め合うよう（教義と聖約 58：27），すべての皆さんにお勧めします。

隣人を愛するこの業を主がこれからも祝福してくださいますよう祈ります。

大管長会

Russell M. Nelson
Dallin H. Oaks
Henry B. Eyring

*「主の民と呼ばれたいと心から願っており『互いに重荷を負い合うことを望み……悲しむ者とともに悲しみ，慰めの要る者を慰めることを……望んでいる』のです。」*

**—ラッセル・M・ネルソン大管長**
末日聖徒イエス・キリスト教会大管長[1]

**イエス・キリストに従う者として，**末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は，神と隣人を愛するといういちばん大切な二つの戒めに従って生活するという聖約を交わし，それを守る決意をしています。空腹の人に食べさせ，渇いている人に飲み物を与え，旅人に宿を貸し，裸の者に着せ，病人や苦しんでいる人を見舞うようにというイエス・キリストの呼びかけに従います。

困っている人の世話をする教会と個人の努力は，初めからわたしたちの使命の中心にありました。1842 年，扶助協会は貧しい人の世話をし，必要に応じた助けを彼らに与える責任を担って組織されました。1936 年，助けの必要な会員の世話をし，そのような会員の自立を助けるために，教会は福祉プログラムを作りました。そして 1985 年，教会の世界規模の人道支援活動が正式に始まったのです。

教会員は助けを必要としている人を探し出し，宗教や人種，国籍にかかわりなく，神のすべての子供たちに援助を提供しようと努力しています。教会とその会員，その趣旨に賛同する方々は，献金に加えてボランティア活動をすることにより，世界中の人々の苦しみを和らげ，彼らが自立できるよう助けています。

**いちばん大切な二つの戒め**は，わたしたちが神と隣人から愛されていることも，示しています。与える人も受ける人も，互いに高め合い，祝福されます。人生でわたしたちは，与える者になる時期もあれば，受ける側に回る時期もあるかもしれません。

主の子供たちに必要なものを与える主の方法の一つとして，教会員には，月に1度，24時間の断食をして，食べなかった食事の代金に相当する金額を困っている人のために惜しみなくささげる機会があります。地元の指導者はこのお金を使って，ワード・支部や地域社会の人々に，必要に応じて食料や衣料，住居，その他を提供できるようにしています。

それに加えて，助けを必要としている人々を助けるために教会が利用できるすべてのリソースは，主の倉と呼ばれています。このリソースには，会員のささげる時間や才能，思いやり，物資，金銭的な援助などがあります。地元の地域社会において，指導者は多くの場合，地元の会員が提供する知識や技能，奉仕を活用することによって個人や家族が問題の解決策を見つけられるように助けることができます。これはすばらしい方法です。

*「主は……〔簡単な戒め〕を与えてくださいました。……困っている人とわたしたちにとってすばらしい約束を伴う戒めです。それは断食の律法です。」*

—ヘンリー・B・アイリング管長
大管長会第二顧問[2]

### 困っている友人に奉仕する

わたしたちはこの人生で，主の倉に自分の持てるものをささげる時もあれば，主の倉から恵みを受ける時もあるかもしれません。アメリカ合衆国に住むあるビショップは，会員の提供した手段と努力がワードの一会員ミリアム* にとってどれほど大きな祝福となったか，ミリアムが積極的に助けを求めたことによって，ミリアムを助けることのできた人たちがどのような祝福にあずかったかを，話してくれました。ミリアムは非常に引っ込み思案で，困ったことがあってもほかの人に相談することにためらいがあり，助けを求めようとはしませんでした。しかし，彼女に割り当てられたミニスタリング担当の夫婦は定期的に彼女を訪問し，ある日ミリアムの状態を確認すると，彼女が2日間椅子から立ち上がれなかったことが分かりました。この夫婦は行動を起こしてミリアムに手を貸し，彼女が安心できるような方法で助けました。

ビショップの指示と，ミリアムのミニスタリングを担当する夫婦との調整により，ミリアムは自分を助けに来てくれる会員を何人か増やしました。その会員や友人たちは，ミリアムの世話を行うチームとなりました。安心して気兼ねなく正直に話せる人たちです。主の倉と断食献金による援助によって，ミリアムは食料や医療品を支給されるようになり，通院の送り迎えもしてもらえるようになりました。しかし，ミリアムが受けたのは物理的な援助だけではありません。情の厚い友人たちに囲まれて，助け合いながらその先も続く問題を乗り越えることができるようになりました。

** 仮名です*

*「自分の住む地域社会であろうとはるかかなたの外国であろうと，行って困っている人を見つけて助けようとするのは，イエス・キリストのあらゆる弟子の DNA の一部になっていると思います。これはまさに，わたしたちの宗教の中心です。」*

—ジェラルド・コセービショップ，管理ビショップ[3]

**3,909 件**

**2021 年度に行われた人道支援プロジェクト**

**9 億 600 万ドル**

**支出金額**

**680 万時間**

**ボランティアが提供した時間**

**188**

**奉仕を行った国と地域の数**

# 9 億 600 万ドル

*が以下を通じて，困っている人々を助けるために支出されました：*

- **断食献金による援助。**困っている人に一時的な財政援助を提供する。
- **ビショップによる物品の注文。**ビショップの倉やデゼレト産業の店舗から困っている人に食料品や日用品などを提供することを含む。
- **人道支援プロジェクト。**世界中の地域社会における慈善支援など。
- **日用品の寄付。**フードバンクその他の機関を通して地域社会に提供。教会が生産した物品を含む。
- **衣類の寄付。**デゼレト産業に安い価格または無料にて提供された衣服など。
- **教会の事業。**ファミリーサービスカウンセリング，雇用センター，農場と食品加工施設，デゼレト産業など。

---

*ボランティアたちは*

# 680 万時間

*以上働いて以下の奉仕をしました：*

- **教会の施設での奉仕。**農場，果樹園，缶詰工場，デゼレト産業店舗など。
- **困っている人の世話をする任務。**全世界 85 か国でのボランティア活動など。
- **教会主催の地域奉仕プロジェクト。**自然災害後の清掃など。

*さらに，JustServe（ジャストサーブ）は 4 万 1,000 件以上のボランティアプロジェクト（2 万 1,500 件の新しいプロジェクトを含む）を可能にしました。*

# 2021

## 熱心に携わる

*JustServe（ジャストサーブ）*

**62,000**
地元地域の新しいボランティアの人数
JustServe（ジャストサーブ）を通して登録

**21,500**
新たに企画されたボランティアプロジェクトの件数

## 奉仕の召し

*宣教師と会員のボランティア*

**11,329**
福祉・自立宣教師と長期にわたって働くボランティアの人数

**9,054 人**
デゼレト産業で働いた人
（職業訓練を受けた人も含む）

**2,800**
30 か国 17 の言語で毎週開催された依存症立ち直りプログラム集会の数

**137,458 人**
自立グループへの参加人数

## ワールドワイド・エイド

*世界規模の人道支援イニシアティブ*

**104**
全世界にある食糧安全保障プロジェクトの数

**60 万人以上**
奉仕した学生の人数

**174 万人**
清潔な水と衛生プロジェクトの助けを受けた人の数

**135**
57 の国と地域で行われたモビリティ（移動支援）プロジェクトの数

## 緊急支援

*災害時の救援*

**199 件**
61 の国と地域で行った緊急時対応プロジェクト

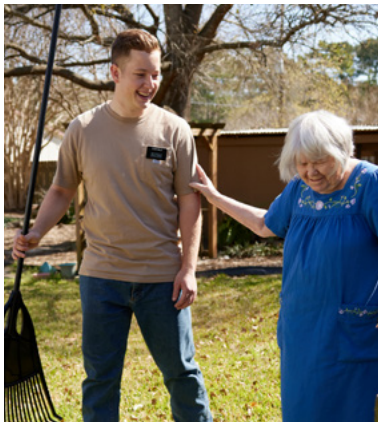
**585 件**
76 の国と地域で行った新型コロナウイルス対策プロジェクトの数

**10 万 5,000 人以上**
教会主催の献血運動で献血した人の数

# 助けの必要な人に対するミニスタリング

*「隣人への奉仕として『見なされる』ために，立派で大それたことをしなければならないと，わたしたちは時に考えますが，ささやかな奉仕の行いこそ，人々だけでなく，自分にも大きな影響をもたらす可能性を秘めているのです。」*

中央扶助協会会長，ジーン・B・ビンガム会長[4]



*教会員は，ワードや支部の人や家族にミニスタリングを行う割り当てを受けます。教会員はミニスタリングをすることによって，救い主が現世で教導の業をなさったときに行われたように，人にささやかな奉仕と愛の行いをすることができます。*

*ミニスタリングの仕方は人によって異なり，あくまでも本人に合った方法で行われます。会員は，ミニスタリング先の人に何が必要かが分かるよう，御霊の導きを求めてよく祈るようにと勧められています。*

*同胞のために奉仕するときに，「祈りにこたえ，慰めを与え，涙をぬぐい，弱くなったひざを強めるという，神の驚くべき務めを果たすよう，わたしたち皆の父である神に助けの手を差し出すことが」できるようわたしたちは願っています（十二使徒定員会，ジェフリー・R・ホランド長老）。」[5]*

# ミニスタリング

**キリストは，地上で教導の業を行われたとき，**人を愛し，人に奉仕する方法を模範によって示されました。末日聖徒イエス・キリスト教会の一員として，わたしたちは周りの人々にミニスタリングを行うことによって主の模範に従うよう努めています。

---

**2021 年，**約 200 人の教会員が，助けを求める呼びかけに応じてドイツやアメリカ合衆国などにあるセンターに出向き，アフガニスタンから来た約 5 万 5,000 人の難民のための手続きを手伝いました。多くのボランティアはセンターに 10 日以上泊まり込みました。中には，30 日間泊まり込んだボランティアもいれば，それより長く滞在した人もいました。教会員は，落ち着く場所を求めている人々に食べ物や衣服，その他の物資を提供して，当座の必要を満たせるようにしました。ドイツの扶助協会の何人かの姉妹が，アフガンの女性たちが頭を覆う伝統的なイスラム教徒の被り物を空港での混乱で失くすか破いてしまったため，代わりに夫のシャツで頭を覆っていることに気づきました。扶助協会の姉妹たちは集まり，困っているこの女性たちのためにイスラム教徒の伝統的な被り物を縫いました。

---

**フィリピンの教会員であるアン**は，知っている人がだれもいない町で，緊急帝王切開で出産しました。当初，地元の支部会長は本人に知らせずにその地域の扶助協会の姉妹たちに声をかけて，助けるようお願いしました。アンとその家族のもとに，彼らにとっては見ず知らずの人たちがやって来て，赤ん坊の服を洗ったり，服を余分に持って来てくれたり，食事を作ったりしました。会員たちが立ち上がってアンの家族にミニスタリングをしたおかげで，アンは必要を満たすことができ，苦しい時期に神の愛をよく感じることができました。

---

**ミニスタリング**の割り当てを果たしたり，地域社会の人たちに当面必要なものを提供したりすることに加えて，教会員はだれにでも親切な行いをすることによって，さらにキリストのようになろうと努めています。キャロルが姉を 39 歳で亡くしてから数か月後，同僚のディーはキャロルとその親族に行き渡る大量の食事を持って行きました。キャロルには家族と一緒にいる時間が必要だということをディーは知り，家族が一緒に和気あいあいと食べられるように食事を用意したのです。

*「奉仕をしているとき，わたしたちは自分のことをあまり考えません。」*

**—ヘンリー・B・アイリング管長**
大管長会第二顧問[6]

***左下：**ドイツのラムスタイン空軍で，アフガニスタンの紛争を逃れてきた人たちへの寄付を仕分けするボランティア。*

*奉仕は，組織として，民としてのわたしたちの信条の中心となる柱です。わたしたちは，イエス・キリストのように，無私の奉仕を通して人々の生活を祝福しようと努力しています。教会員は地元の集会所で役割を果たし，奉仕プロジェクトに参加し，よく祈って隣人に奉仕する機会を探し求めることによって，地域社会で奉仕します。*

*良いサマリヤ人のように，「隣人」という言葉の定義は自分のすぐ近くにいる人という意味だけではないと，わたしたちは信じています。わたしたちは，住む場所や人種，国籍，性別，宗教的・政治的信条にかかわらず，困っている人を助けようとしています。*

# 隣人の世話をする

**「救い主は『よい働きをしながら……巡回されました』**（使徒 10：38）」と，東ラスベガスの末日聖徒イエス・キリスト教会歓迎センターでボランティアをしているカライデン姉妹は言っています。「主は〔人々〕の生活を霊的な面だけでなく物質的にも祝福されました。それは，主の業を行い，御霊に従い，主の御名によって人々を愛するというわたしたちの使命のように感じます。」[7]

---

**カライデン姉妹とその夫**は，地域社会に貢献する奉仕をしています。最近移民してきた人々が法的支援を受けられるようにしてあげたり，英語がうまくなるよう助けたり，市民権を取得する手続きを進められるよう助けたりして，彼らが良い仕事を見つけて生活レベルを上げられるよう助けているのです。この夫婦は，2021 年に時間や才能，労力，持てるものをささげてボランティアとして地元で奉仕した何千人もの教会員のほんの一例にすぎません。

---

**オーストラリアから西アフリカに至るまでの教会員は**，地域の清掃・美化プロジェクトに参加して，植林や，地元の公園の清掃などを行いました。そのようなプロジェクトの一環として西アフリカの教会員は 2021 年全アフリカ奉仕の日キャンペーンに参加し，ガーナに 1 万 5,000 本の苗木を植えました。

---

**ボリビアでは**，ロス・アンデスステークの扶助協会の姉妹たちが，ペットボトルのキャップを 3 万 4,000 個集めて，低所得世帯の小児がん患者たちが化学療法を受けられようにするニーニョ・フェリス運動を支援しました。モンゴルのホブド支部の会員たちは，地元の暴力被害者シェルターを訪れて，暖かい毛布や新生児用品，衛生キットを寄付しました。

*上：2021 年の全アフリカ奉仕の日に 1 万 5,000 本の苗木を植える，ガーナの教会員。*

*上：地域の他団体と協力して畑の雑草を抜き，地域社会の美化活動をしている，ニュージーランド，オークランドの教会員。*

*「自分を愛するように あなたの隣り人を 愛せよ」*

—マタイ 22：39

**フランス領ポリネシアのエリマワードの会員たち**は，アリュー市と協力して訓練コースを立ち上げ，地域社会の人たちが裁縫を学べるようにしました。このコースに参加した人たちは自分の着る服を縫ったり，母親になったばかりの女性のために赤ちゃん用の毛布を作ってあげたりすることができるようになりました。

---

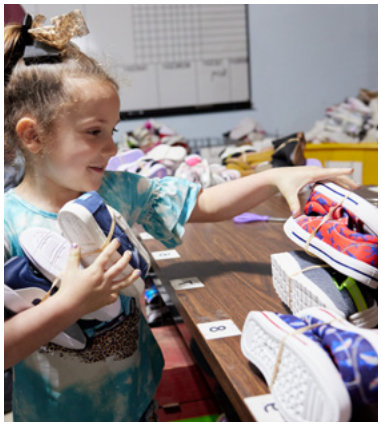
**コロンビアでは，**カリにあるビヤコロンビアステークの会員たちが，冬の雨の被害を受けた地域の人たちを助けるために集まりました。毛布を作って寄付するだけでなく，彼らは活動を調整して，被害を受けた住民にその毛布を届けるという奉仕もしました。

---

**韓国とカナダの両国では，**会員たちが扇風機やエアコンその他の必需品を高齢者に届けました。この必需品は，新型コロナウイルス感染症の制限によって孤立してしまった，弱者である高齢者の安心・安全に大きな違いをもたらしました。

---

**ケベック州**モントリオールステークのコミュニケーションディレクターであるアドリアナは，積極的に奉仕する会員のことを，こんな言葉でまとめています。「主イエス・キリストの模範に従って助けを必要としている人に手を差し伸べることによって，人の人生を変えることができます。なぜなら，わたしたちがよく知っているように，『小さな，簡単なことによって大いなることが成し遂げられる』からです（アルマ 37：6 参照）。」[8]



*2020 年には，若い男性と若い女性が自分の神聖な可能性を伸ばすことができるようにするために，青少年用の新しい個人の成長プログラムがスタートしました。この「子供と青少年」プログラムで若人は，奉仕に携わり，地域社会で積極的に活動することが奨励されています。*

*子供と青少年は，奉仕活動を計画し，成人指導者や家族に助けてもらいながら自分のやりたい目標やプロジェクトを選びます。この活動は，教会の子供と青少年がさらに救い主に似た者となり，社会的，霊的，肉体的，知的に成長できるようにするために作られました。*

*「〔教会の青少年と子供たちは〕これまでのどの世代よりも，より賢明で，より思慮深くなる可能性を備えており，世の中により大きな影響力を与えることができます。」*

**—ラッセル・M・ネルソン大管長**
**末日聖徒イエス・キリスト教会大管長**[9]

# 子供と青少年

**昨年，**教会の子供と青少年は全世界で地域社会に積極的に奉仕しました。若い人たちは，地元の青少年団体が計画した活動を通して奉仕活動に参加したり，自分自身の霊感に従って奉仕したりします。

**2021 年 9 月 11 日，**イギリスとアイルランドの 40 ステークの青少年が奉仕の日に参加しました。物資を集めてフードバンクに届けることから，単語カードを作って難民が英語を学べるよう助けることまで，実に様々な活動が行われました。

**2021 年，**全世界の多くの青少年が，教会の「世界に，光を。愛と共に…」キャンペーンに参加しました。このキャンペーンの一環として，エクアドルの成人指導者は若い女性たちに編み方を教えました。そして，この若い女性たちは 3 か月で 43 本のマフラーを作って，地元の老人ホームに送ることができたのです。

**教会が組織する活動だけでなく**，家族は家庭で奉仕の機会を計画するよう勧められています。カナダのアルバータ州のアンドリューズ家族は，地域の人たちと一緒に計画を立てて，ごみが散乱した自宅近くの空き地を清掃しました。このアイデアを思いついたのは 5 歳のプレストンで，実行できるよう 4 人のきょうだいが助けたのです。

**教会の若い会員であるチェルシー**は，新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起きたとき，密かに考えていた計画を実行することにしました。新型コロナウイルスが地域社会の人々を変えた話を集めてそれを書籍として出版し，その収益を地元のフードバンクに寄付したのです。それは，フードバンクが配達用トラックを買うのに十分な金額で，フードバンク（とチェルシー）は，地域社会の多くの人の生活に良い影響を与えました。

# 熱心に携わる

*「末日聖徒が全世界で毎日欠かさずに行う奉仕が合わせてどれほどになるか量ることは不可能でしょう。」*

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長, ラッセル・M・ネルソン大管長[10]

*上：嵐の被害を受けた地域から薪を集める，ユタ州ケイズビルの教会のボランティアたち。集めた薪は，ナバホ・ネイションの住民に届けられました。*

# JustServe（ジャストサーブ）

- **地元地域社会のボランティアとして新たに登録した人：6 万 2,000 人**
- **新たに企画されたプロジェクト：2 万 1,500 件**
- **新たに登録された組織：2,500**

---

**末日聖徒イエス・キリスト教会**は，すべての人が地域社会に積極的にかかわるべきであると信じています。人に奉仕することにより，わたしたちは結束を強め，民族や文化，宗教の違いを超えて平和を育むようになります。

パンデミックが起きて以来，教会が運営する地域社会サービスプラットフォームである JustServe（ジャストサーブ）は，どこにいてもできる遠隔奉仕活動を追加する機能を組織に提供してきました。JustServe（ジャストサーブ）は，その創設以来 10 年の歴史の中で，66 万人以上のボランティアが 13 万件以上のプロジェクトに登録しています。これらのプロジェクトは，1 万 3,500 の非営利団体，政府機関，宗教団体，地域社会団体によって掲載されてきました。

JustServe（ジャストサーブ）のプロジェクトは地域社会の支援を提供し，宗教の壁を越えた協力関係を生み出しています。この取り組みは，愛と思いやりを示すだけでなく，与える人と受ける人の両方にとって成長の機会にもなります。地域社会での奉仕は何かが起こってから組織的に行われますが，JustServe（ジャストサーブ）は，地域社会の人たちがボランティア活動をして困っている人を助けることができるようなプロジェクトの提供も行っています。

2021 年には，何千ものプロジェクトがこのプラットフォームに追加されました。平均すると，毎日 7 団体がこのプラットフォームに参加したことになります。

最も注目すべきは，イエス・キリスト教会の会員がビラル・マスジド・モスクの会員と協力して 225 キロ以上のごみを集めたプロジェクトで，オレゴン州ビーバートンで行われました。このプロジェクトのおかげで，町がきれいになっただけでなく，ほかの宗教の人々との間に友情を築くことができました。

ユタ州レイトンでは，地元の扶助協会の指導者がユタ州セントメアリー・エチオピヤ正教会と調整して 9/11 奉仕の日に一緒に奉仕しました。2 団体の間に友情を築きながら，双方の団体の会員は地元の学校の子供たちのために 1 万個を超える食品の詰め合わせを作りました。

そして，イリノイ州シャンバーグでは，ボランティアたちが教会の建物を認可された食品加工施設に変え，食品をパッケージに詰めて，困っている人たちに配れるようにしました。ここで奉仕する機会があることを JustServe（ジャストサーブ）に投稿したところ，このプロジェクトには様々な宗派から 356 人の応募があり，ボランティアに来てくれた人たちで 8 万 5,538 食を詰めました。この作業の結果，ハイチとフィリピンに住む 234 人の子供たちが 1 年間食べられるだけの食料が用意できました。

---

*「人は一緒に奉仕すると，異なる点よりも共通点の方が多いことに気づくのです。」*

**— M・ラッセル・バラード会長**
十二使徒定員会会長代理[11]

---

***左下：**フードドライブ「フィードユタ」は，1 日もたたないうちに州内から何千もの食糧の寄付が集まりました。*

*左上：ルイジアナ州ハモンドにあるファースト・ユナイテッド・メソジスト教会で，ハリケーン・アイダ襲来後のがれきをほかの人たちと協力して取り除くボランティアたち。*

### 奉仕で結束する地域社会の人々

2021 年後半に何千人もの難民がアフガニスタンから流れ込んで来た後，カリフォルニア州プレザントン近郊のトライ・バレー地域は，50 組の台所用品を揃えるようにという要請を，国際救助委員会（IRC）から受けました。地元の様々な団体や宗教団体を含む地元のボランティアたちは協力して，鍋やフライパン，食器など調理用品を載せたチラシや，アマゾンの「欲しいものリスト」を作りました。できたチラシやリストは JustServe（ジャストサーブ）のウェブサイトに掲載され，公開されました。

最初の日には 115 品目の購入があり，5 日もたたないうちに要請のあった 500 品目がすべて揃ったのです。そのため，この地域では寄付の目標を 70 組に増やすことに決めました。すると，たった 1 週間で，700 以上の品目が購入されたのです。これは 1 万 1,000 ドル以上に相当します。品物が届くと，ボランティアの一団が台所用品キットを作って車に積み込みました。要請から 3 週間以内に，すべてが IRC に届けられたのです。

このプロジェクトの実施中，ボランティアのデナは，自宅に届けられる荷物の数に配達員の一人が驚いていることに気づきました。デナは，IRC の寄付集めを手伝っているのだと説明しました。するとその男性は，自分と家族は 2003 年にアメリカ合衆国に来て，同じ台所用品プログラムの恩恵にあずかった，とデナに言ったのです。男性は，謙遜な感謝の気持ちを伝え，関係者全員に自分の感謝の気持ちを伝えてほしいと言いました。

# 奉仕の召し

*「わたしたち一人一人の取り組みが必ずしも金銭や遠方に行くことを必要とするわけではありません。聖なる御霊の導きと，主に向かって，『ここにわたしがおります。わたしをおつかわしください』と進んで言える心が求められています〔イザヤ6：8〕。」*

中央扶助協会会長会第一顧問，シャロン・ユーバンク姉妹[12]

*多くの教会員は自分の家族や集会所，地域社会で奉仕しますが，専任の福祉・自立宣教師になって，さらに多くの時間を人道支援活動につぎ込むことにする人もいます。*

*この献身的なボランティアたちは，教会の自立支援活動や人道支援活動の中で様々な役割を果たしています。割り当てにもよりますが，彼らは職探しを手伝い，貧困層の人々が安定した生活ができるように助け，人道支援プロジェクトを監督することができますし，さらには教会所有の農場やその他の施設を管理することもできます。*

# 福祉・自立宣教師

**末日聖徒イエス・キリスト教会の福祉・自立宣教師**は，より良い生活を求める人々を助けるという教会の取り組みを推進しています。この忠実な会員たちは，世界中で行われている人道支援活動の調整，実施，監督をよく助けています。

---

**例えば，ニッシュ長老夫妻**は，南アフリカの東ケープで 980 台の車椅子と，166 台の歩行補助器具を，それを必要としている人たちに届けるうえで重要な役割を果たしました。この夫婦は農村部の診療所での働きを監督するだけでなく，東ケープ州の保健省が配達作業の不手際を見つけてそれを排除できるよう助けることができました。その結果，車椅子を利用するための待機時間が大幅に減り，障害のある子供や成人は車椅子を利用して，自分で移動できるようになりました。

---

**福祉・自立宣教師**は，困っている人が自立できるよう助けるという教会の目標の達成も支援します。ロンドン南東部では，ミラー長老夫妻が教会のフレンドシップセンターで奉仕しています。同センターは，戦争や迫害，自然災害から逃れてきた人々を助ける目的で設立されました。ミラー夫妻はボランティアや地元の政府機関，その他の非営利グループと調整して，これら弱い立場にある人々が友人を作り，技術を身につけ，カウンセリングや法的支援を受けられるようにして，移り住んだ地域社会にうまく溶け込めるよう助けています。

**自立を促す取り組みの一つとして，**エリングソン長老夫妻は教会所有のハワイ州ライエ農場を管理しています。そこで 310 世帯以上が作物を育て，家族を養っているのです。エリングソン夫妻は開墾して植え付けに備えて土作りができるよう助け，基本的な農業技術を教えました。彼ら

*「神と聖約を交わした人は皆，ほかの人を気遣い，助けの必要な人のために奉仕すると約束しています。」*

**—ラッセル・M・ネルソン大管長**
末日聖徒イエス・キリスト教会大管長[13]

の働きにより，新型コロナウイルス感染症のパンデミックのために仕事が乏しい時期に食糧を手に入れにくくなった多くのハワイの人たちが自活できるようになっています。

---

**同様に，ブロック長老夫妻**は，台湾テクニカルミッションとキリバスの環境・土地開発省と協力して，地元住民が栄養価の高い野菜を長期にわたって収穫できる畑を作ることができるよう指導しました。この取り組みの目的の一つは，糖尿病の発症率の低下に役立つ食習慣を奨励することです。

---

**また，ハスキンソン長老夫妻**も，フィリピンのセブ地域における教会の会員福祉プログラムを推進しました。彼らの努力のおかげで，4 家族がそれぞれ 2 匹の子豚を支給され，それに加えて，独自の菜園を始めるうえで必要な情報と技術支援，援助が与えられました。このプロジェクトのおかげで，この 4 家族は自立できるようになり，新しいスキルを学び，生活の質を向上させることができました。

---

ニッシュ夫妻やミラーズ夫妻，エリングソン夫妻，ブロック夫妻，ハスキンソン夫妻は，世界 68 か国で奉仕する 7,300 人以上の専任およびパートタイムの福祉・自立宣教師のほんの一握りの例にすぎません。

# 自立コースの進行役

- **自立グループの数：1 万 4,984**
- **参加者数：13 万 7,458 人**
- **就職に成功した人の数（アメリカ合衆国とカナダでの記録）：2,658 人**
- **雇用宣教師の数：400 人以上**

**教会は**，人が仕事を見つけ，経済的に安定し，教育の機会を得，情緒的な強さを築くことができるようにするために，自立プログラムを推進し，そのためのリソースを提供しています。

この取り組みには，全世界 144 か国で宣教師その他のボランティアが携わり，自立グループの進行役を務めたり，職探しの手伝いをしたりしています。このグループへの参加者は，2021 年に 16 パーセント増加し，職探しや教育，個人の財政管理，事業の立ち上げについてアドバイスを求める人は 31 パーセント増加しました。

2021 年に新設されたコースの一つに，レジリエンスを高めるコースがあります。「主に力を見いだす：レジリエンスを高める」の新しい手引きとビデオは，会員も，同じような信仰を持つ友人たちも利用できて役立ちます。このコースは，健全な思考パターンを育み，ストレスや不安に対処し，悲しみと落ち込みを理解し，怒りを克服することに焦点を当てています。目標は，参加者のレジリエンスを高め，人生のチャレンジにうまく立ち向かえるようにすることです。

これらのコースに加えて，職を探している人は，求職活動の仕方や面接の準備についても助けてもらうことができます。また，就労支援やオンライン・ワークショップにも，楽しく参加することができます。この努力が実って，2021 年には何千人もの人が就職や転職をすることができました。

その一人に，アリゾナ州立大学で航空宇宙工学の修士号を取得したエンジニアのジョセフがいます。卒業後，ジョセフはなかなか職に就くことができませんでした。その後何度面接を受けても採用されなかったため，ジョセフは地元の雇用リソースサービスセンターを訪問することに同意し，雇用サービス宣教師と定期的に会って 1 対 1 の指導を受けるようになりました。彼は能動的な求職活動プログラムに参加し，2 か月もしないうちにロケット科学者として内定をもらいました。

雇用の障壁に悩んでいる人は，デゼレト産業を通して能力開発カウンセリングを受けることができます。このプログラムでは，目標を立て，その目標を達成するために必要な教育を受け，経験を積むための計画を立てます。同プログラムの一環として，参加者は教会所有のリサイクルショップで訓練を受け，実務を経験します。

*「ほんの少し外から啓発するだけで，自分の手で問題を解決しようという気にさせることは可能です。場所によって解決方法は異なると思いますが，基本的な原則を適用できることが分かっています。」*

**—レイナ・I・アブルト姉妹**
中央扶助協会会長会第二顧問[14]

### 奉仕の目標

マイケルは事業を売却した後，最終的に解雇されるまで，新しい社長の下で働き続けました。別の仕事を見つけましたが，うまくいかず，辞めました。

マイケルは重いうつ病にかかり，地元の病院の精神科病棟に入院しました。医師はデゼレト産業のインターンシッププログラムに参加するよう勧めました。マイケルは能力開発カウンセラー兼ジョブコーチとともに働き始めました。このカウンセラー兼ジョブコーチは，マイケルと話して，マイケルが妻とともに伝道に出る目標を立てられるよう助けました。

時がたち，マイケルは目標を達成することができて，現在妻とともにニューヨーク州パルマイラ神殿で宣教師として奉仕しています。

### 家族関係の強化

2021 年のレジリエンスを高めるプログラムの一環として，アフリカ西地域は，「青少年のレジリエンスを育む」という全会員を対象としたオンラインカンファレンスを開催しました。出席者の中に，ある若い女性がいて，母親と一緒に参加していました。

大会の前，この若い女性と母親は激しく対立していました。母親は娘に対して厳しく，見下すような言葉をいつも使っていたのです。

この若い女性によると，大会で教えられたスキルのおかげで，大会後は母親の自分に対する振る舞いが著しく改善したそうです。母親がこのように変わったおかげで，この若い女性は自尊心が非常に強くなり，自信もついてきました。

# ファミリーサービスのカウンセラーと進行役

- **毎週開催された依存症立ち直りプログラムの集会：週に 2,800 回（30 か国 17 の言語）**
- **奉仕した人：30 万 4,405 人**
- **家族, グループ, 個人, 夫婦のカウンセリング：18 万 9,994 回**

**教会のファミリーサービス**の組織では, 社会的, 情緒的な問題を抱えている人に指導者がリソースを提供したり, 相談に乗ったりします。

ファミリーサービスが力を入れている重要な事柄の一つは, 教会の依存症立ち直りプログラム (ARP) です。このプログラムは, 依存的な行為を克服しようと努力している人を支援し, 気兼ねなく話せる場所をそのような人に提供します。この無料のプログラムは, 支援グループを作って福音の枠組みを用いた「12 のステップ」に従います。このプログラムは, 救い主イエス・キリストとつながり, 主を癒しの源と認める福音を中心とした枠組みの中で構成されています。依存症立ち直りプログラムは, 全世界で ARP ボランティアが進行役を務めており, 宗教に関係なく, だれでも参加できます。

ARP サービスだけでなく, ファミリーサービスは, 会員, 宣教師, これから親になる人など, 様々な状況にある人々にカウンセリングを提供しています。セラピストは, 地域内の会員を助ける最善の方法について教会指導者と相談することができます。また, 家族, グループ, 結婚のカウンセリングも行います。

### 人生が好転

ポルノグラフィー依存症と 50 年間自分一人で闘ったけれども何の進歩もなかったジョン* は, この依存行動を克服するために ARP 集会に出席しました。 ARP の集会に出て人生が変わったとジョンは言います。ジョンは自分の人生を主に向け, ARP 集会に出席し, 努力して 12 段階のプログラムを終えました。

まだ ARP の集会に出席していたころ, ジョンは自分が受けたものをお返しするために ARP プログラムのボランティアとして奉仕したいと思っていました。自分に務まるのかと疑問に思いながらもこの目標についてビショップに話したところ, ジョンは間もなく, ボランティアで働く割り当てを受けました。ジョンは ARP プログラムで 4 年間奉仕し, 人々の生活を変えるのを助けながら, 自分も真面目に道を歩み続けることができました。

* 仮名です

# デゼレト産業

- **デゼレト産業で働いた人：9,054 人**
- **リサイクルされた品物：5,898 万 1,915 ポンド（2,675 万 3,747 キロ）**
- **製作された家具：39,835 点**
- **奉仕宣教師：137 人**

**1938 年,** 教会はもっと自立しようと努力する人々の能力を高める手段として，デゼレト産業（DI）を設立しました。

この目標を達成するために，デゼレト産業は 8 つの州でリサイクルショップを 45 店舗運営しています。寄付された品物と新しい家具（デゼレト製造で製作）が取り揃えてあり，必需品が手ごろな価格で購入できるようになっています。ビショップから紹介された困窮者は，衣服や必要不可欠な家財品目を無料で受け取ることもできます。

デゼレト産業には雇用プログラムがあり，それを通して人々がさらに自立できるよう支援しています。このプログラムは，雇用の障壁に苦しんでいる人が技術を磨き，即戦力を身につける訓練を受け，実戦的なアドバイスから恩恵を受け，最終的には長く続けられる職業に就けるように助けます。

デゼレト産業は，承認された非営利組織が地元の地域社会で使用する物品を無償で入手できるように，地域社会の助成を行っています。 2021 年，デゼレト産業はそのような地域の助成を 270 回行いました。

最後に，デゼレト産業は，人道支援センターを通して，教会が全世界で行っている人道支援活動を支援しています。寄付された品物の中からまだ売れていないものをこのセンターで仕分けして，最も必要とされている場所に届けているのです。

教会員と宣教師はデゼレト産業がその使命を果たすうえで，重要な役割を果たしています。地元のデゼレト産業店舗に物品を寄付するだけでなく，教会員と奉仕宣教師は 12 万 2,841 時間奉仕しました。

### 立ち直る

ニールは会社の営業部で働いていましたが，2020 年 3 月に突然失業しました。職を求めてデゼレト産業にやって来ましたが，それは当座をしのぐためのものであると思っていました。ところが，やがて，この新しい仕事が自分の人生を変えつつあることに気づくようになりました。

「デゼレト産業で働いていると，キリストの愛を込めながら日々の仕事をする方法が分かるようになりました」とニールは述べています。「わたしは，忍耐することと勤勉に働くこと，謙遜になること，人を敬い，思いやりを示すこと，根気よく努力すること，品格を持つことを学びました。一文無しの男を立ち直らせてくれたのです。この感謝の気持ちをどう言い表せばいいのか，わたしには皆目分かりません。」

*教会の宣教師プログラムは，地元でも世界中でも，有意義な奉仕をする機会を会員に与えています。*

*奉仕宣教師は，6 – 24 か月間パートタイムで奉仕します。地元の地域社会で奉仕プロジェクトを組織し，それに参加します。地元の人道支援プロジェクトを支援するために，奉仕宣教師を召すこともできます。*

*ティーチング宣教師は 18 か月から 24 か月間専任宣教師として奉仕し，全世界のあらゆる地域で人々を教え導く割り当てを受けます。これらの宣教師は救い主について教えることが務めの中心ですが，その一環として奉仕プロジェクトにも参加します。また，割り当てられた地域で緊急対応の取り組みを支援するよう要請されることもあります。*

# 奉仕宣教師とティーチング宣教師

**「宣教師として**，いつも奉仕の機会があるのでうれしく思います。なぜなら，奉仕を通して，キリストがなさったように人を助けることができるからです」と，ニュージーランドで奉仕する専任宣教師のマックイーン姉妹は言っています。[15]

2021 年，マックイーン姉妹は伝道活動の一環として幾つかの奉仕プロジェクトに参加することができましたが，その中には，教科書や家具を配送用の箱に入れるのを手伝う機会がありました。その品物は最終的に，サイクロンによって多くの学校が被害を受けたフィジーの生徒に送られました。

---

**宣教師は**，割り当て地域内の人道支援プロジェクトでの奉仕をしばしば求められます。例えば，オーストラリアのメルボルンでは，宣教師が協力して，困っている家族のために寄付されたクリスマスプレゼントの荷降ろしや整理をしました。カーボベルデの宣教師も同様に，空腹を抱えた 70 家族に食べ物の入ったかごを届けました。

---

**地元地域のプロジェクト**も，宣教師の参加によって恩恵を受ける場合があります。グアテマラシティーでは，宣教師たちが「Pintemos la 8ª calle（8 番街にペンキを塗ろう）」というイベントに参加し，公共スペースの改修計画の一環として建物の外壁にペンキを塗りました。一方グアムでは，宣教師たちは環境美化のために清掃活動を毎週行いました。

**自然災害その他の緊急事態**が発生した場合，地元の奉仕宣教師とティーチング宣教師は，助けを必要としている人々を助けるために時間と労力をささげます。例えば，2021 年には，ドイツ，ベルギー，オランダ，ルクセンブルグ，スイスの一部で大規模な洪水が発生しました。数日のうちに，被害を受けた地域に 60 人を超える宣教師が派遣され，寄付された物資を

*「シンプルな福音をシンプルに実践した際にもたらされる奇跡的な結果から多くを学ぶことができます。」*

**—ゲーリー・E・スティーブンソン長老**
十二使徒定員会[16]

仕分けたり，家や学校から土砂やがれきを撤去したりしました。宣教師は，その後数か月にわたって1万2,000時間以上の奉仕を行い，多くの地元住民から「エンゲル・ウンターウィーグ」つまり，「天から遣わされた天使」と呼ばれるようになりました。

---

**宣教師はまた，**担当地域内で人道支援活動を行うためにも，時間をささげます。10月，182人の宣教師がメキシコのプエブラでワクチン接種の日に参加して，来た人たちの手指を消毒し，人々を誘導し，質問に答えました。その働きの結果，11万人以上の成人が新型コロナウイルス感染症のワクチン接種を受けることができました。

---

**プエブラ北伝道部**で奉仕しているモラーン長老は，こう言っています。「人に奉仕するとき，神に仕えているのだと，わたしは信じています。わたしたちは信仰において兄弟であり，神の家族の一員であると信じていますから，奉仕はわたしたちの信仰の基本なのです。」[17]

上：教会の暫定支援サービスは，職探しの助けや地元にある組織や制度から支援を受けるための手続きの仕方など，様々な支援を必要とする人たちのために働きます。

# 暫定支援サービス〔注：一時的に生活支援をする教会本部でのサービス〕

- **断食献金基金やビショップによる注文から援助を受けた個人と家族：5,000**
- **宣教師が行った奉仕活動：2 万 9,000 時間以上**

**教会の暫定支援サービスオフィスの専任職員と奉仕宣教師**は，更生施設を出た人，人身売買から救い出された女性，退役軍人，移民してきたばかりの人，亡命者，ホームレス生活を経験した人など，様々な境遇にある人に物質的，精神的，霊的な援助を提供することに力を注いでいます。

暫定支援サービスは，131 人の奉仕宣教師の助けを得て，アメリカ合衆国の 7 か所で運営されています。教会員も，神権指導者と扶助協会指導者の責任や宣教師の割り当て，ワード／支部の召しを通して，この取り組みを支援します。このボランティアたちは，地域社会の組織やその他の教会関連団体（デゼレト産業やファミリーサービスなど）と協力して，助けを必要としている人が最適な組織や制度から支援を受けられるよう助けます。

2021 年にこの助けを受けた人のほぼ半数は，教会員ではありませんでした。これらの取り組みは，助けを必要としている人を助け，個人の世話をし，自分自身を愛するように隣人を愛するようにというイエス・キリストの教えを基に行われています。

助けを受ける人は，自分が神の子供として愛されていることを教えられ，進歩を妨げる障害を克服する手段を与えられ，人々に奉仕することの大切さを教えられます。暫定支援サービスのおもな目的の一つは，人が自立できるよう助けることですが，霊的な貧困を克服できるようにすることも，同様に重要です。事実，この二つは切っても切り離せないものなのです。

### 自立の祝福を刈り取る

25 年の服役を終えて刑務所を出たカールは，暫定支援サービスオフィスに行くようにと，支部会長から紹介を受けました。暫定支援サービスは，カールのために食料と衣服，公共交通機関の利用手段などを確保しました。これは，生活するうえでなくてはならないものであり，カールの更生に必要でした。しかし，ほとんど身寄りのないカールには，幸せと希望と目的を見いだすためにも，助けが必要でした。

暫定支援サービスのボランティアたちはカールに救い主の力を教え，カールが自分に価値と可能性を見いだすことができるよう助けました。彼らはまた，職探しの手伝いもしました。それ以来，カールは同じような状況にある人を助ける機会を求め，3 人の出所者たちが仕事を見つけて希望を見いだせるよう助けています。

# ワールドワイド・エイド

*「ほとんどの人道支援と慈善的な取り組みを達成するには，個人のリソースを大きな規模で集約して管理する必要があります。回復された教会はこの方法で，膨大な人道支援を世界中で行っています。」*

大管長会第一顧問，ダリン・H・オークス管長[18]

# 食糧安全保障と栄養

- **全世界で行われた食糧安全保障プロジェクト：104 件**
- **恩恵を受けた国：18 か国**

**末日聖徒イエス・キリスト教会**は，すべての人が栄養のある物を食べられるようにするべきだと信じています。会員からの寄付に助けられて，教会は全世界の地域社会の人々の健康増進と生活の質の向上のために，食糧安全保障と適切な栄養を摂取できるシステムの確立に取り組んでいます。

色とりどりの栄養価の高い食べ物が手に入らない場合には，果物や野菜，穀物を自分で育てるために対策を講じるよう勧められています。自分自身と家族のために食料を提供できるようになると，充実感を覚えるだけでなく，後の世代に健康という大きな受け継ぎを残すことができます。

2021 年，コンサーン・ワールドワイド（Concern Worldwide），カトリック救援サービス，ユニセフ USA などの団体の協力を得て，教会は世界中で 104 の食糧安全保障プロジェクトの実施を助けました。個人と家族は改良された農業方法を教わりました。そのおかげで，プロジェクトの終了後，この地域での食糧の生産高は長期にわたって増えることになります。

例えば，エイブラハムは，コンサーン・ワールドワイドが実施したプロジェクトで受けた訓練から大きな恩恵を受けた一人です。リベリアで野菜作りに情熱を傾けていたエイブラハムは，穀物の生産高を増やすのに役立つ技術を学ぶことができました。家族に食べさせることができるようになったばかりか，近隣の人々に余った野菜を売ることができるようになったのです。エイブラハムの農場は，今年教会のプロジェクトで支援した 3 万 1,262 か所の小規模家族農場の中の一つです。

教会はまた，参加者が栄養バランスの重要原則とその原則に沿った食生活の実践方法を学べるよう助けるプロジェクトにも貢献しています。例えば，教会はほかの慈善団体と協力して，ベニンとセネガルで妊産婦の鉄分の不足を補うために，小さいながらも鉄分補給能力の高い「ラッキーアイアンフィッシュ」を配付しました。これは鉄でできた 5 センチ程度のもので魚の形状をしており，沸騰したスープなどに入れると 6 ミリグラムから 8 ミリグラムの鉄分を放出します。しかも，数年間繰り返し使うことができます。このプロジェクトを通して，教会は 500 万食以上の食事に豊富な鉄分を供給するのに十分な「ラッキーアイアンフィッシュ」を提供することができました。

*「これは単なる複数の慈善団体の関係というだけでなく，世界中の姉妹や兄弟に手を差し伸べることに熱心に携わる信仰ある人々の多くの集団との関係なのです。」*

**—ショーン・キャラハン氏**
カトリック救援事業会の会長兼最高経営責任者[19]

© 2021, Lucky Iron Fish Enterprises (LIFE)

### 学校に果樹園を贈るプロジェクト

キルギスタンでは，教会とマーシー・コープス〔Mercy Corps —訳注：人道支援を行う非営利組織〕が協力して，子供たちの食生活に必要な新鮮な果物を提供するという目的を第一に掲げて，数十の学校に果樹園を造り，その維持管理を行いました。 2021 年，教会はさらに別の 20 校で 2,102 本の苗木を植える作業を後援しました。これにより，このプロジェクトに参加する学校数は 155 校に上り，3,000 人以上の生徒が果物の恵みにあずかりました。

生徒と職員で消費し切れない果物は販売し，その収益で学校の食事をさらに豊かなものにしています。 2021 年 11 月，マーシー・コープスの評価によると，学校側の優れた果樹園の維持管理の努力のおかげで，苗木の生存率は全体で 95%でした。

### 栄養失調の子供のサポート

シエラレオネのグバッサイは生後 18 か月で重度の栄養失調その他の合併症を患い，2 か月間入院しました。教会とユニセフ USA からの支援のおかげで，グバッサイは生命維持に必要な体重にまでなることができました。

しかし，これは最初の一歩にすぎませんでした。というのは，グバッサイの今後の身体的および精神的な発達は，引き続き十分な栄養が取れるかどうかにかかっていたからです。地元で育てた野菜を使って子供に食事を用意する方法について教える支援グループに参加することを通して，グバッサイの母親は自分の子供に栄養のある食事を与える方法を学び，同じスキルを地元の母親に教える「栄養大使」にもなりました。

2021 年にユニセフ USA が協力して取り組んだ結果，シエラレオネのモヤンバ地区全域に住む約 1,500 人の子供が栄養失調の治療を受けて快復しました。

© DIGDEEP

# 清潔な水と衛生

- **援助を受けた人：174 万人**
- **プロジェクトが開始された国：47 か国**
- **清潔な水と衛生プロジェクト：114 件**

**清潔な水**は，長年にわたって末日聖徒イエス・キリスト教会の主要な努力目標となっています。安全に管理された飲料水と衛生サービスが利用できるということは，質の高い生活の基盤であり，家族と地域社会の基礎となります。

清潔な水があれば，健康になり，子供と青少年は学校に通うようになり，自立できるようになって，人はさらに成長します。

福祉宣教師は清潔な水を提供する取り組みを世界中で支援することができますが，ほとんどのプロジェクトでは，教会員が直接かかわることは求められていません。むしろ，教会は会員からの献金を使って，清潔な水と衛生システムの普及を総合的に進めている組織と協力しています。そのような組織の多くは，水道システムの強化に尽力している主要グループの連合である「変革のアジェンダ（Agenda for Change）」に所属しています。

清潔な水を地域社会に提供するという教会の目標は，生活の尊厳，目的，大切さに焦点を当てています。さらに教会は水道システムの維持管理の訓練だけでなく，正しい衛生習慣を身につける訓練をすることによって，このような水の供給が持続できるように努力しています。

この目的の下で，教会は 2021 年に，幾つかの注目すべき水供給プロジェクトを行いました。「きれいな水を人々へ（Water for People）」と協力して，ホンジュラスのチンダ，サンアントニオ・デ・コルテス，エルネグリートの村々で，5 つの学校と地域で水道システムを建設または修理したのです。このプロジェクトのおかげで，231 人の生徒と教師，および 936 人の地元住民の水道が改善されました。

教会はまた，「ウォーターエイド（WaterAid）」という組織と協力して，マリで水プロジェクトを支援しました。このプロジェクトでは，学校と医療施設に 11 の新しい仮設トイレを設置しました。さらに，地元の診療所に水道が引かれ，診察所のごみを処分する焼却炉も設置されました。ランドリー施設が産科病棟に併設され，二つの学校管理委員会と一つの地域社会保健協会の会員は，衛生関係の設備の維持管理方法の訓練を受けました。このプロジェクトから恩恵を受けた人は，合わせて 5,300 人以上に上ります。

*「イエス・キリストに倣ってミニスタリングを行うとき，愛し，高め，仕え，祝福するという主の働きには，当座の必要を満たすことよりも高い目標があったことを覚えておくことが大切です。……主は今日のことについて世話をする以上のことをしたいと思われました。」*

**— W・クリストファー・ワデルビショップ**
管理ビショップリック第一顧問[20]

### ナバホ・ネイションの水問題

ナバホ族は，30 パーセントの家族が水道のない暮らしをしています。この問題に対処するために，末日聖徒イエス・キリスト教会は 2021 年にナバホ族と協力して，彼らが清潔な水道水を使えるようにしました。これは，非営利団体「ディグディープ（DigDeep）」との提携を通して実現しました。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの間，ディグディープ，教会，ナバホ族は協力して，275 ガロン（1,250 リットル）の貯蔵タンクを数百個使って水を供給し，タンクローリーで定期的に補給できるようにしました。現在に至るまで，このプロジェクトはニューメキシコ州，ユタ州，アリゾナ州で 700 人を超える人々に恩恵をもたらしてきました。

それに加えて，この「ナバホ水プロジェクト」は，ナバホ族の長老たちを含む，最も弱い立場にある人々に水道水と水道設備を届ける方法を重点的に考えました。現在，家庭用水道システムが 20 世帯に設置されています。

### ホンジュラスにおける水道システムの回復

2020 年，二つの熱帯性低気圧がホンジュラスを襲い，コルドンシーヨスの町の水道は破壊されました。その結果，ベッシーをはじめとする何百人もの人々が，小川から水をくんできて家まで運ばなければならなくなりました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックのさなかでの被災だったことから，特に支援には困難が伴いました。

この事態に対して，地元の人々は「きれいな水を人々へ（Water for People）」の技術者と協力して，水道を再度引く工事ができるよう支援しました。教会はこの事業を支援し，最終的にコルドンシーヨスでは水道が復旧しました。

ベッシーを含む 3,000 人以上の人々は，安全な水が使えるようになり，健康を守り，安心して食べ物を洗うことができるようになりました。安心して使える水が手に入らない時期を経験したベッシーは，自分の町の水道を復旧させ，安心して使える水を普及させる活動を全世界で展開している人たちに，特に感謝しています。

© DIGDEEP

© DIGDEEP

# 教育

- **恩恵を受けた生徒：60 万人以上**
- **教科書と教材を支給された生徒：7,740 人**
- **教室の家具を支給された生徒：6,998 人**
- **リモート学習を行った生徒：2,400 人**

**すべての人が質の高い教育を**受けられるようにすることにより，全人類の尊厳が高まり，人は神に近づくことができるようになります。聖文はわたしたちにこう教えています。「研究によって，また信仰によって学問を求めなさい。」（教義と聖約 88：118）そして，「神の栄光は英知である。言い換えれば，光と真理である」ということを，わたしたちは信じています（教義と聖約 93：36）。

永代教育基金（PEF）という奨学金プログラムは，良い職に就いたり，自営業を始めたりするための訓練プログラムの費用を会員が支払うための助けになります。2021 年には，2,282 人が新たに PEF 奨学金を受給し，最長 2 年間までの職業訓練プログラムを受けることができました。2021 年には同基金の 170 人の奨学生が卒業し，177 人が以前より条件の良い仕事に就いています。奨学生の中には，卒業前に良い仕事が見つかった人もいたのです。2021 年には，この PEF 奨学金プログラムが，ブルンジ，カメルーン，コンゴ共和国，ルワンダの 4 か国の人々にも，新たに利用できるようになりました。

ベンソン奨学金プログラムは，高校卒業後に農業関連分野の教育を受ける人に，奨学金を提供しています。2021 年には，237 人がこの奨学金を受けました。

教会はまた，BYU パスウェイ・ワールドワイドを運営しており，ブリガム・ヤング大学アイダホ校およびエンサインカレッジと連携して，手ごろな価格でオンライン教育も提供しています。2021 年に BYU パスウェイ・ワールドワイドで学んだ学生は 6 万人近くに上り，180 か国以上の学生が学びました。BYU パスウェイの生徒の 50 パーセント以上は，アメリカ合衆国またはカナダ以外の国の学生です。

教会の EnglishConnect プログラムで英語を学ぶことによって，世界中の人がさらに自立し，活躍の機会を広げることができるようになっています。この英語学習コースは，ブラジル，韓国，メキシコ，日本，カリブ海，中央アメリカなど，幾つかの国と地域で提供されています。

さらに教会は，世界中の難民や住む家を失った人々を支援する教育プログラムを後援しています。教育と生計を立てる手段は，このような人々から最もよく求められる援助の形態です。プロジェクトには，教室の改装や備品の提供，学用品の提供，リモート学習を促進するためのテクノロジーのサポート（新型コロナウイルス感染症のパンデミックの間など）などがあります。

*「生涯学ぶことにより，周囲の世界の営みや美点に気づき，楽しむ力が伸びます。」*

**—ダリン・H・オークス管長**
大管長会第一顧問[21]

難民のための教育プロジェクトを支援する際に教会は，すでにある世界規模の組織や地域にある組織，国の組織と協力して働きます。これらの草の根組織は，野営地や定住地で最前線の働きをしていて，宣教師その他のボランティアが行う作業をよく見守っています。

教育は，教会のほかの人道支援活動においても，多くの場合，欠かすことのできない役割を果たしています。長期にわたって継続できるようにするために，教会は，問題のある地域に訓練と教育を提供するプロジェクトを選択します。こうすることにより，医師が新しい機器を使用できるような体制が整えられ，地元の人たちが訓練を受けて，新しく引かれた水道を維持管理できるようになり，各個人が自分の地域の資源や成功事例に気づくようになるなど，多くのことが可能になります。

世界中の会員は，ボランティア活動と伝道活動を通して，教育の普及運動を支援しています。このボランティアたちは，2021 年に 1 万時間近く奉仕しました。

### 断固とした決意で学ぶシリアの生徒たち

2021 年，教会はシリアの子供と青少年のための教育プログラムである「ジュスール（Jusoor）」と提携しました。このプロジェクトでは，「決意」という意味のアラビア語にちなんで名付けられた「アジーマ（Azima）」と呼ばれるオンライン教育プログラムを作成しました。

世界的に見て，テクノロジーの活用は子供の教育においてますます重要になってきています。これは特に，少なくとも 1 台のスマートフォンを持つ世帯が 3 分の 2 しかない難民の社会に当てはまります。難民の定住地にいる生徒の多くは，きょうだいがスマートフォンを使えるようにするために，急いで宿題を終わらせなければならないことを，ジュスールは把握していました。

ジュスールは，この子供たちが必要なテクノロジーを使えるようにするために，助成金プログラムと貸し出しプログラムを作りました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックの間，家庭で学習しなければならなくなったアジーマプログラムの生徒たちは，数学，アラビア語，英語の学習において大きな進歩を遂げました。

© ヒマラヤ白内障財団

# 医療と障害

- **モビリティ（移動支援）プロジェクト：135 件（57 の国と地域）**
- **妊産婦と新生児ケアプロジェクト：25 件（18 か国）**
- **眼科治療プロジェクト：28 件（24 の国と地域）**
- **糖尿病，ポリオ，はしかなどの病気を予防するためのキャンペーン：7**

---

**キリストは現世で務めを行われた間，**障害のある人や病気の人にミニスタリングをすることに，特に心を砕かれました。わたしたちは今日も，医療と障害者の援助を通して世界中でこの偉大な使命を果たしています。

わたしたちの活動は，眼科治療，車椅子と移動支援，妊産婦と新生児の世話，予防接種の 4 つの分野に焦点を当てています。教会は地元の保健省その他の組織と協力して，何が必要かをよく理解し，解決策について徹底的に話し合います。また，チャリティービジョン（CharityVision），ライオンクラブ国際財団，ユニセフ USA などの信頼できる組織とも連携しています。

プロジェクトを選択する際，教会は長期的な改善につながるプロジェクトを優先します。わたしたちは継続的な訓練や機器のメンテナンスの計画を含め，各プロジェクトの計画を評価して，地元の医療システムの質と維持管理方法の向上に努めています。また，プロジェクトは国家のケアプランに沿ったものでなければならず，既存のシステムを強化し，感染症の大流行その他の緊急事態への対応体制も改善されていなければなりません。

プロジェクトが功を奏するためには，プロジェクトの恩恵にあずかっていない人や，十分にその恩恵にあずかっていない人に対応できるような認識と教育も必要になります。すべてのプロジェクトで，わたしたちはどんな調整が必要かを知るために，モニタリングと評価の計画を実施します。

地元の教会員と専任の人道支援宣教師や奉仕宣教師は，このような取り組みにおいて役に立つ支援を提供します。このボランティアたちは，モニタリングと評価のプロセスの一環として，援助を受けている人と面接を行います。特別な技術や知識を持つ教会員も，地元でトレーナーとしてボランティアをすることができます。

2021 年に教会は，ボランティアや地元の保健省，実施している組織の助けを得て，全世界で 200 近くの医療および障害関係のプロジェクトに参加しました。

---

*「イエス・キリストは，そのような愛と奉仕の完全な模範です。主が教え導かれた間，主は貧しい者の世話をされ，病人と目の見えない人を癒されました。」*

**—ロナルド・A・ラズバンド長老**
十二使徒定員会[22]

---

パラグアイで教会は，フンダシオン・ソリダリダード（Fundación Solidaridad）と協力して，（脳性まひなど）重度の障害のある約 900 人に車椅子を提供し

ました。このプロジェクトでは，医師，理学療法士，ソーシャルワーカー，技術者のチームに，車椅子およびその他の矯正器具の使い方の訓練も行いました。

モザンビークで教会は，3万5,000件以上の視力検査をサイトセーバーズ（Sightsavers）と協力して行うプロジェクトに資金を提供しました。このプロジェクトはまた，1,500件の白内障手術と啓発運動にも資金を提供し，障害のある人々が治療を受けやすくなるようにしています。

タジキスタンで教会は，新生児と妊産婦のケアに使う機器を送りました。また，医療の専門家たちは保健省と協力して毎月オンライン集会も開いて，妊娠高血圧腎症や新生児蘇生法などのテーマについて1,000人の医師，看護師，助産師を訓練しました。

ベネズエラでは，ユニセフUSAと協力して，はしか，おたふく風邪，風疹，ジフテリア，破傷風，ポリオ，結核のワクチンを，40万人以上の女性と子供に接種できる分を確保しました。教会はまた，3つの倉庫のワクチン保存システムの修理とメンテナンスにかかる費用を提供しました。

マラウイでは，デフキッズ・インターナショナル（DeafKidz International）を通して聴覚の治療を受ける資金を提供しました。教会は地域社会を基盤とした啓発キャンペーンに加えて，このプロジェクトでは設備を整え，地元のクリニック職員と健康監視アシスタントを訓練しました。その結果，2021年には556人の子供と成人が難聴の検査を受けました。

© 国際開発局ケニア

© 国際開発局ケニア

### 住みやすい世界を目指して

フィリピンに住むエズラは，手と足に指の欠損があり，両足のつま先が左に向いています。大きくなるにつれ，右足が左足よりも長くて歩くときにバランスがうまく取れないことも，気になってきました。最終的にエズラは，難しい決断ではありましたが，左足を切断して義足を着けることにしました。

2021 年，教会は多くの地域の医療センター，地元の組織，「平和財団の医師」などの団体と協力して働きました。この働きを通して，教会はフィリピン全土に 982 台の車椅子と 335 台の補助機器を寄贈することができました。

教会主催のプロジェクトを通して，エズラは義足を手に入れました。そして，歩いたり立ったりすることが非常に楽にできるようになったのです。義足のおかげで，自由に動き回れるようになり，人に頼らずに自分の力で生活できるようになります。

### 5 年間の盲目が癒された

タンザニア出身のハリマは，白内障で目が見えなくなってから 5 年間，人に頼らずに自分で行動できる自由を取り戻すことはできないだろうかと考えていました。

「自分で何でもできるようになりたいだけなんです。わたしは生涯ずっと人に頼らずに生きてきましたが，今はまったくの役立たたずになってしまったと感じています」[23] とハリマは言っていました。彼女は姪に四六時中世話をしてもらっていて，そのため姪は学校に行くことができませんでした。

ありがたいことに，ハリマは視力を失ったものの治療が可能で，チャリティービジョンが実施する教会主催のプロジェクトを通して，視力回復手術を受けることができました。ハリマは，その支援のおかげで 2021 年に自立を取り戻し生活の質を向上させることができた，何千人もの人たちの一人です。

視力を得て，ハリマは重荷から解放され，自立を取り戻しました。姪が学校にまた行けるようになったことに，ハリマは感謝しています。

# 緊急支援

*「共同で救援活動を行うことにより，緊急時の災害対応が強化され，全世界で何百万もの人々が助けられてきました。」*

ADRA（セブンスデー・アドベンチスト教会が運営する国際人道支援組織）会長，マイケル・クルーガー氏

上：ハリケーン・アイダの後，末日聖徒イエス・キリスト教会の会員を含む地域のボランティアは，勤労感謝の日の週末を使って清掃作業を行いました。

# 緊急支援

- **緊急支援プロジェクト：199 件（61 の国と地域）**
- **新型コロナウイルス対策プロジェクト：585 件（76 の国と地域）**
- **ワクチンの配付：10 億回分**

---

**教会は，**世界中の自然災害その他の緊急事態への対応を最優先しています。2021 年，教会は 100 近くの国で何百もの緊急時対応プロジェクトを行いました。このプロジェクトを通して食料や水，避難所用の備品，医療，その他の必需品を届けると，被災者たちは安堵しました。

その中には，パンデミックの被害を軽減することを目的とした新型コロナウイルス対策プロジェクトが 585 件ありました。教会は，世界中で医療用品や機器を寄付しただけでなく，パンデミックの影響を受けた 100 万人のブラジルの人々に 32 万食の食品の詰め合わせを送るなど，その他のなくてはならない助けも提供しました。

2021 年の初め，教会は 2,000 万ドルをユニセフ USA に寄付して，新型コロナウイルス感染症の検査と治療，ワクチンをだれもが平等に受けられるようにする，コバックス（COVAX）キャンペーンを含む ACT アクセラレーターを支援しました。この貢献により，教会は当時のこの取り組みへの民間部門最大の寄贈者となりました。ユニセフのインド代表であるヤスミン・アリ・ハケ博士は，こう言っています。「提携する組織が力を合わせて世界中の国々の命を救うことになるワクチンを届けるとは，世界の歴史上，かつてない話です。」[24] プロジェクトは，確実かつ迅速にワクチンを生産し，医療従事者を訓練し，誤った情報を訂正することによって，新型コロナウイルスワクチンをだれでも平等に受けられるようにすることに重点を置いています。

教会はまた，コンゴ民主共和国における噴火の後，7 つのプロジェクトも後援しました。これらのプロジェクトは，食料と水の提供，ダムと清潔な水の水源の回復，その他の救援団体との協力に重点を置いています。「信仰の女性 DRC（Women of Faith DRC）」と協力して行ったあるプロジェクトでは，ボランティアたちが 800 時間以上働き，3 万 1,000 人に影響を与えました。

アメリカ合衆国では，これまでに国内を襲った最も強力なハリケーンの一つであるハリケーン・アイダの被災者に必要な支援を与えるために，教会は 4 つのプロジェクトを実施しました。アメリカ赤十字への寄付を通して，教会は避難所や食事，心理面での応急処置を提供しました。教会はまた，アメリカ合衆国南東部の複数のステークからボランティアを集め，地元のビショップの倉の物資を使って 6,521 世帯の家と土地の掃除を手伝いました。

---

*「2021 年初頭の皆様の迅速な対応のおかげで，新型コロナウイルス感染症のワクチンが予想よりも早く届き，数か国に最初のワクチンを送るのに役立ちました。」*

**—カーラ・ハダデ・マルディーニ氏**
ユニセフの資金獲得・パートナーシップ部門ディレクター

---

2021 年 8 月，マグニチュード 7.2 の地震がハイチを襲い，インフラに大きな被害を与え，何千人もの人々が家を追われました。教会は信頼できる組織を通して，住む場所や食料，水，公衆衛生，衛生，医療など，国内の様々な需要を満たすことによって，これに対応しました。さらに教会は，災害で負傷した人々の治療に必要な機器を，地元の病院に提供しました。

教会とその会員が非常時に時間と資源を提供できる理由の一つは，前もって備えていて，世界の状況を見守ってきたからです。教会は，危機に対応する政府その他の救援団体との関係を確立するとともに，教会や地域社会自体の備えを強化することも目指しています。そうすることにより，予期せぬ事態が生じたときに，教会は迅速かつ効果的に助けることができるようになります。

会員はまた，貯蓄や食糧貯蔵を含む自立と緊急時のための備えの原則に従うことによっても，災害に備えます。 2021 年には，家族の備えを支援するために，1,390 万ポンド（640 万キログラム）の家庭貯蔵製品を個人や家族に販売しました。

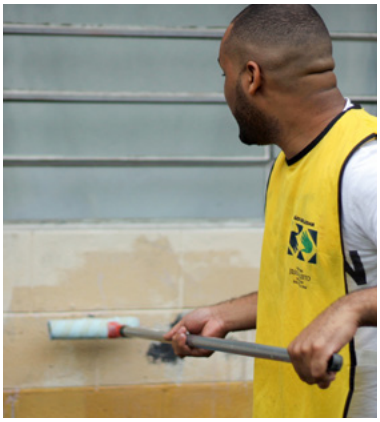
**教会員**は困っている人々を助けようとしており，苦しみを和らげる活動に，地元でも世界でも，熱心に取り組んでいます。この取り組みには宣教師もかかわっており，毎週の奉仕に参加するよう勧められています。さらに会員は，地域社会や世界に必要なことを行うために，忙しい生活の中から日々時間をささげています。

教会主催のプロジェクトでは，地域社会での奉仕と災害救援を行って，困っている人たちを助け，会員その他の人々が組織された緊急時対応チームの一員となれるようにしています。さらに，JustServe（ジャストサーブ）も，個人が地元の地域社会での活動に参加する方法に関する情報を提供しています。

© スコット・ダルトン／アメリカ赤十字

### 2021 年度の主要な緊急時対応プロジェクト

- エチオピア：教会は，ティグレ地域で食料，医療，衛生用品，水の支援を提供しました。
- アメリカ合衆国：会員のボランティアは，ワシントン州とオレゴン州で，火災と煙で損なわれた町の清掃を手伝いました。
- フィリピン：ハリケーン・オデッテの後，教会員はフィリピン中部と南部の島々に 50 以上の教会の集会所を開放するために集まりました。これらの集会所は 5,000 人近くの人々のための避難所になりました。
- トンガ：教会員と宣教師は，噴火のために国内の大部分が厚い火山灰で覆われてしまった後，町の清掃と再建を手伝いました。
- アメリカ合衆国：教会は，ハワイにおける壊滅的な洪水に対応して，緊急物資と避難場所を提供しました。
- ヨーロッパ：教会員と宣教師は，洪水の被災者を救済するために何千時間も奉仕しました。寄付された品物を仕分けし，地下室や家，特別な助けを必要とする生徒のための学校を掃除しました。教会は洪水の被災者と避難生活者に，水や食料，医療援助を提供しました。
- スーダン：教会は，清潔な水，食料，医療用品などの基本的な必需品を提供するとともに，洪水の被災者を救済し，難民にも対応しました。
- アメリカ合衆国：JustServe（ジャストサーブ）は何百人ものボランティアを集め，テキサス州の停電と水道管の凍結による深刻な状況に対する支援を行いました。



こうした組織的な活動のほか，個人や家族，教会の会員たちは，ほかにも様々な方法で社会にお返しする活動をしています。例えば，人道支援キットや食料セットを作ったり，難民や亡命者の支援団体でボランティア活動などをしたりしているのです。

また，教会の会員や友人は，教会の人道支援に献金することによっても貢献しています。例えば，ある少年はレモネードスタンドを始め，その収益を教会の人道支援プログラムに寄付しました。献金の額は様々ですが，献金はすべて神聖なものと見なされます。

# 献血運動

- **実施された献血運動：3,000 件以上**
- **献血された血液：10 万ユニット以上**
- **献血した人：10 万 5,000 人以上**

**輸血を必要とする人のため**の献血運動は，教会が全世界で行っている活動です。例えばペルーでは，あるワードが地元の病院と協力して教会の集会所で献血を行いました。さらに，2021 年には，アルゼンチンの 1700 人以上のボランティアが教会主催の献血運動で献血しました。

アルゼンチン，メンドーサのパルマイラ支部の会員ブライアンは，献血したときのことについて次のように言っています。「血液を必要としているほかの人に血液を提供できると感謝の気持ちでいっぱいになり，救い主がわたしのためにしてくださったことがさらに少し分かるようになります。」[25]

アメリカ合衆国において，末日聖徒イエス・キリスト教会は 19 世紀末以来，アメリカ赤十字社と長年にわたる関係を築いています。教会員は，定期的に献血を行うだけでなく，献血運動のスケジュールを作成したり，献血の推進活動，登録者の募集や献血当日の運営の手伝いも行っています。

*「毎年，教会から 10 万ユニットの血液を受け取っています。そこまでやってくれている組織や団体はどこにもありません。……わたしは皆さんの団体としての信仰と奉仕に対する決意に畏敬の念を抱いています。」*

**—ゲイル・マクガバン氏，**
アメリカ赤十字社最高経営責任者（CEO）[26]

### 献血によって救われた命

生後わずか 4 か月で，ミーガンは心臓の状態を修復するために開胸手術を必要としました。ミーガンは，O 型の RH マイナスという世界の人口の 6.6%しかいないというまれな血液型だったため，病院は緊急事態発令を市全体に出して，O 型の RH マイナスの血液型の人を探しました。

ミーガンの家族と教会の会員たちは，自発的に献血してくれる人が集まるよう，断食して祈りました。その翌日，彼らの祈りはこたえられました。

「1 日で 73 人が来ました。中には，文字どおり車で 3 時間かかるニューキャッスルから，献血するだけのために来てくれた人もいたのです」とミーガンの母親は言います。[27]

ミーガンは，毎年献血によって命が救われている数百万人の一人でした。友人や見知らぬ人たちの親切のおかげで，ミーガンは成長し，健康で幸せな生活を送っています。

© 2018 Renée Jacobsen

# 食糧の生産と配送

- **寄付された食糧：8,000 万ポンド（約 3 万 6,000 トン）**
- **生産された食糧：1 億ポンド（約 4 万 5,000 トン以上**
- **10 ポンド（約 4.5 キログラム）の食糧を生産すると，3 人分の 1 日分の食料が賄える**

**教会は 32 の農場，**牧場，果樹園，および加工施設を運営しており，2021 年には 4 万 5,000 トン以上の食糧を生産しました。4.5 キロの食糧があれば 3 人が一日生き延びることができます。この食糧がビショップの倉を通して教会員その他の困っている人々に 1 万 6,000 トン配られ，地域の取り組みを通して 2 万トンが地域社会のキャンペーンで寄付されました。その他の日用品は，将来の緊急事態に備えて，毎年保管されています。

現在使われているビショップの倉は，124 あります。困っている人は，地元の指導者に相談して，この倉で食料その他の品物を無料で受け取ることができます。ビショップの倉が近くにない場所では，指導者がその人を地元の食料品店に案内できるよう手配します。

ほとんどすべての倉と家庭貯蔵センターは，奉仕宣教師が管理しています。このボランティアたちは，製品の注文や品出し，注文への対応，施設の清掃を行い，親切で愛に満ちた方法で利用者を助けます。また，これらの施設では，地元の教会員も奉仕しています。

世界中で緊急事態が発生した場合，教会は地元の援助組織と提携し，非常用物資を可能な限り効率の良い効果的な方法で供給し，分配します。地元での物品の購入には，以下の利点があります。

- 配達時間の短縮
- 輸送費用の削減（その分さらに物品の購入に費用を充てることができる）
- なじみのある食べ物を提供
- 地元経済の強化
- 地元の人たちが物資の配付にかかわる

2021 年 12 月 21 日，デゼレト・ミル・アンド・パスタ工場（the Deseret Mill and Pasta Plant）は，その年に生産された 100 万箱目の食品を祝いました。2019 年の同工場の生産量のほぼ 2 倍だったからです。この 100 万箱の食品は，5 億 2,766 万 1,424 食分に相当します。小麦など，同工場で製造される加工食品の原材料は，アメリカ合衆国内の教会所有の農場や販売元から取り寄せています。同工場では，小麦粉やオーツ麦，米，豆，ケーキミックスとパンケーキミックス，マカロニ，リボンパスタ，スパゲッティーなどをパッケージに入れています。

*「あなたがたは，わたしが空腹のときに食べさせ，かわいていたときに飲ませ，旅人であったときに宿を貸し……てくれたからである。」*

—マタイ 25：35

1日におよそ60人のボランティアが登録して，忙しい4時間シフトで働きます。同工場で生産された食品は，ビショップの倉を通して寄付され，トラックで食糧庫やそのほかの慈善団体に届けられました。

2021年2月，ハリケーンエタとイオタの被害に対して，教会はホンジュラスの住民に，デゼレト・ミル・アンド・パスタ工場で製造された食品を含む77トン以上の食料品を届けました。

### 特別なボランティアグループ

製造工場では，困っている人を祝福するために日用品を供給するだけでなく，互いに奉仕し合う機会を提供します。宣教師は教会や地域のボランティアと協力して，空腹の人のために食物を調理してケースに入れるのに必要な，様々な作業を行います。この作業を行うグループは，いずれもラッパを吹き鳴らすことなく粛々と，奉仕と愛の作業を行います。

多くの場合，出来上がった品物から恩恵を受けている多くの人の中からボランティアをする人が出ています。例えば，ソルトレーク・シティーの中心街では，ビショップは援助を受けている人に，ウェルフェアスクウェア缶詰工場で一定の時間ボランティアをするよう招待することができます。同様に，地元の判事は，軽犯罪者に同工場で働いてもらって，地域社会での奉仕の時間に換算してもらうことができます。製造工場で働くことを通して，与える者と受ける者の両方が互いに仕え合い，必要な糧を得て祝福されます。

### 食べ物のある温かい家庭

ビショップの倉や地元食料品店での買い物の手配に加えて，教会は生活必需品を寄付し，地元のフードバンクを支援しています。こうした寄付を通して，ブリタニーは家庭を温かい所にし，地元の移動食料供給車で家族に食べさせることができました。

「生活が少し楽になったのは，移動食料供給車から食料を頂いたためにできるようになったことがあるからです。子供たちに，好きなだけ食べさせることができるようになりました。食べるものに困るのはみじめですものね。子供たちは食べる物があるか気にしています。」

この思わぬ支援を受けて，ブリタニーの家族は，ほかの必要不可欠なもののために貯金するようにもなりました。室温が5.5度に下がるまで，彼女は暖房を入れません。

「そのくらいまで下がったら暖房を入れなくちゃね」とブリタニーは言いました。

# 感謝に寄せて

*この人道支援の大義のために惜しみなく時間と労力をささげてくださっているすべての方に心からの感謝をお伝えします。皆さんの奉仕が見過ごされることはありません。多くの人が教会の慈善活動を通して，自分たちにできることを提供しています。また，さらに多くの人々がオンラインまたはビショップを通して提供しています。皆さんが時間や持てるもの，労力，思いやりをささげてくださっているおかげで，わたしたちは世界中の何千もの人々の生活を変え，奉仕を受けた人々から学ぶことができます。ありがとうございます！*

*奉仕にかかわり，新しい方法を見つけて奉仕するよう，わたしたちはすべての人にお勧めします。皆さんの思いやりと努力は，大きな違いを生み出すことでしょう。*

---

# 助けるために何ができますか

*困っている人を助ける活動に関してさらに学ぶには，教会のオンラインページまたはソーシャルページを御覧ください。*

ChurchofJesusChrist.org | JustServe.org | DeseretIndustries.org | LatterdaySaintCharities.org

AddictionRecovery.ChurchofJesusChrist.org

# 参照文献


[1] ラッセル・M・ネルソン「大切な第二の戒め」『リアホナ』2019年11月号, 97

[2] ヘンリー・B・アイリング「〔これは〕わたしが選ぶところの断食……ではないか」『リアホナ』2015年5月号, 22

[3] Gérald Caussé, "Love Thy Neighbor: Church Joins Global COVID-19 Humanitarian Relief Effort," newsroom.ChurchofJesusChrist.org.

[4] ジーン・B・ビンガム「ミニスタリング—救い主のように」『リアホナ』2018年5月号, 104

[5] ジェフリー・R・ホランド「彼らとともにいて, 彼らを強める」『リアホナ』2018年5月号, 103参照

[6] ヘンリー・B・アイリング「霊感に基づくミニスタリング」『リアホナ』2018年5月号, 64

[7] Lorrie Curriden, in "The Church's Welcome Centers Help Immigrants Live Better Lives," newsroom.churchofjesuschrist.org/article/the-church-s-welcome-centers-help-immigrants-live-better-lives.

[8] Adriana Robledo, in "Latter-day Saints Around the World: Country Newsroom Websites, May 3, 2021," news-ca.churchofjesuschrist.org/article/caring-for-the-elderly.

[9] ラッセル・M・ネルソン「シオンのつわもの」〔ワールドワイド・ユース・ディボーショナル, 2018年6月3日〕『リアホナ』別冊, 16, ChurchofJesusChrist.org

[10] ラッセル・M・ネルソン「大切な第二の戒め」『リアホナ』2019年11月号, 97

[11] M.Russell Ballard, "Becoming Self-Reliant Spiritually and Physically," *Ensign, Mar. 2009, 50.*

[12] シャロン・ユーバンク「主がわたしたちを使ってくださるよう祈ります」『リアホナ』2021年11月号, 55

[13] ラッセル・M・ネルソン「平和の福音を宣べ伝える」『リアホナ』2022年5月号, 6

[14] 2020年3月11日開催の国際女性外交デーにおける昼食会でのレイナ・I・アブルトの説教

[15] Sariah McQueen, in "Schoolbooks and Furniture to Damaged Schools in Fiji," news-nz.churchofjesuschrist.org/article/schoolbooks-and-furniture-to-damaged-schools-in-fiji.

[16] ゲーリー・E・スティーブンソン「シンプルに美しく, 美しいほどにシンプル」『リアホナ』2021年11月号, 50

[17] Elder Morán, "Alrededor de 1000 misioneros y miembros de la Iglesia de Jesucristo colaboraron como voluntaries en jornada de vacunación en Puebla," noticias.laiglesiadejesucristo.org/articulo/misioneros-y-miembros-colaboraron-como-voluntarios.

[18] ダリン・H・オークス「教会の必要性」『リアホナ』2021年11月号, 25

[19] Sean Callahan, in "In Utah, Catholics, Mormons Have 'Positive, Cordial Relationship,'" https://www.catholicsun.org/2019/03/24/in-utah-catholics-mormons-have-positive-cordial-relationship/

[20] W. クリストファー・ワデル「主がなされたように」『リアホナ』2019年5月号, 20

[21] Dallin H. Oaks, "Push Back Against the World," Feb. 24, 2017, https://speeches.byuh.edu/commencement/push-back-against-the-world.

[22] ロナルド・A・ラズバンド「世の中を癒す」『リアホナ』2022年5月号, 92

[23] Halima, in "Restoring Eyes and Lives through the Church's Global Vision Care Initiative," thechurchnews.com/global/2021-06-17/latter-day-saint-charities-eyes-vision-cataracts-africa-215459.

[24] Yasmin Ali Haque, in "2 Billion COVID-19 Vaccinations Roll Out to At-Risk Populations," newsroom.churchofjesuschrist.org/article/2-billion-covid-19-vaccinations-roll-out-at-risk-populations

[25] Brian Ezequiel Oliva Fuentes, in "Cerca de 3500 voluntarios Santos de los Últimos Días donaron sangre durante la Pandemia Covid-19 en Argentina," noticias.laiglesiadejesucristo.org/articulo/cerca-de-3500-voluntarios-santos-de-los-ultimos-dias-donaron-sangre-durante-la-pandemia-covid-19-en-argentina.

[26] Gail McGovern, in "The Church of Jesus Christ Does This More Than Any Other Organization," deseret.com/2021/9/30/22690263/churchbeat-newsletter-mormon-lds-church-of-jesus-christ-red-cross-blood-donations.

[27] Rebecca Waring, in "Blood Donations Save Tiny Lives," news-uk.churchofjesuschrist.org/article/blood-donations-save-tiny-lives.

[28] L・タッド・バッジ「聖きを主にささげる」『リアホナ』2021年11月号, 100


---

*「物資の提供と同様に注目に値するのは, 教会員が人道支援活動に多大な時間と労力をささげている点です。」*

管理ビショップリック第二顧問, L・タッド・バッジビショップ[28]

*「主の民と呼ばれたいと心から願っており*
*『互いに重荷を負い合うことを望み……*
*悲しむ者とともに悲しみ，慰めの要る者を*
*慰めることを……望んでいる』のです。」*

—ラッセル・M・ネルソン大管長
末日聖徒イエス・キリスト教会大管長

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

© 2022 Intellectual Reserve, Inc. All rights reserved. バージョン：6／21 原題：*Latter-day Saint Charities 2021 Annual Report* Japanese PD60013504 300 印刷：アメリカ合衆国